

回復期脳卒中リハビリテーションに関するHUI3を用いた健康効用値の測定

○能登真一 (OT)¹⁾, 上村隆元 (Dr.)²⁾, 光金正官 (OT)³⁾, 山口晃可 (OT)³⁾

¹⁾新潟医療福祉大学医療技術学部, ²⁾杏林大学医学部, ³⁾藤沢湘南台病院リハビリテーション科

Key words: QOL, 脳卒中, (健康効用値)

【はじめに】リハビリテーションのアウトカムの一つとして健康関連QOL (HRQL) が注目されている。HRQLは疾病特異尺度と一般尺度に大別されるが、一般尺度はさらに包括尺度と健康効用値尺度に分けられる。とくに後者は臨床経済学的分析を行う上で欠かせない指標であり、リハビリテーションの領域でも今後更なる活用が求められる。今回我々は健康効用値を測定する尺度の一つであるHealth Utilities Index (HUI) を用いて、回復期の脳卒中リハビリテーションの効果を測定し、HRQLの構造の変化を検討したので報告する。

【方法】対象は平成16年10月から平成17年6月までにS病院の回復期リハビリテーション病棟に入院しリハビリテーションを施行された脳卒中患者52名である。対象者の平均年齢は70.9歳、男女比は男性25例、女性27例であった。疾患の内訳は脳出血15例、脳梗塞37例で、損傷部位は右半球24例、左半球19例、両側もしくは大脳以外の損傷は9例であった。HRQLの測定はHUI Mark3 (HUI3) を用い、病棟担当の作業療法士が代理人として対象者のHRQLを回復期リハビリテーション病棟の入院前後で測定した。HUI3は視覚・聴覚・会話・移動・器用さ・感情・認識力・痛みの8つの領域から健康効用値を測定する尺度で、多属性側面の他、単領域ごとの側面の健康効用値も測定できる。それぞれ0から1の間の数値で表され、多属性側面の場合には972,000通りの健康効用値の提示が可能とされている。倫理的手続きとして、S病院の倫理委員会で審査、了承を得た。

【結果】対象者の発症から回復期リハビリテーション病棟入院までの日数は46.7日で、当該病棟入院期間は61.2日であった。HUI3による健康効用値は入院時に 0.15 ± 0.31 であったものが、退院時には 0.36 ± 0.34 となり ($p < 0.0001$)、その増分は 0.22 ± 0.21 であった。単領域ごとの比較では、リハビリテーション施行前後で移動・器用さ・感情・痛みの4領域に統計的に有意な差が認められた。また転帰の違いによる健康効用値の比較では、自宅退院者で0.47、施設入所者0.20、転院者0.04と有意に異なる結果となった ($p < 0.0001$)。

【考察】HRQLは患者の生死を扱わないリハビリテーション領域で大変有用なアウトカム指標と訴えられて久しいが、HRQLの概念の定義や測定尺度の妥当性の検討などを通して社会的な認知がようやく高まってきた。一方で、逼迫する我が国の財政状況等からリハビリテーションの臨床経済学的な効果を提示する責務にも迫られている。HUI3は今回の結果からも明らかなように、回復期の脳卒中リハビリテーションのアウトカム指標として非常に感度が高く有用であると考えられた。